

機電部門あるべき姿の検討（二次方策）

(1) 安全・品質・環境・コンプライアンスの活動目標（二次方策）	・・・ P.1
① 協力会社	・・・ P.2
② 計画・組織体制	・・・ P.3
③ 自社機械	・・・ P.4
(2) 原価力・生産力の活動目標（二次方策）	・・・ P.5
① フロントローディング・計画	・・・ P.6
② 開発・改善 新領域	・・・ P.7
③ 自社機械	・・・ P.8
④ 調達（資機材・施工）	・・・ P.10
(3) 人材・専門技術の活動目標（二次方策）	・・・ P.11
① 人材確保	・・・ P.12
② 東西交流 部門間連携	・・・ P.13
③ ダイバーシティー	・・・ P.14
④ 伝承・教育	・・・ P.15

(1) 安全・品質・環境・コンプライアンスの活動目標(二次方策)

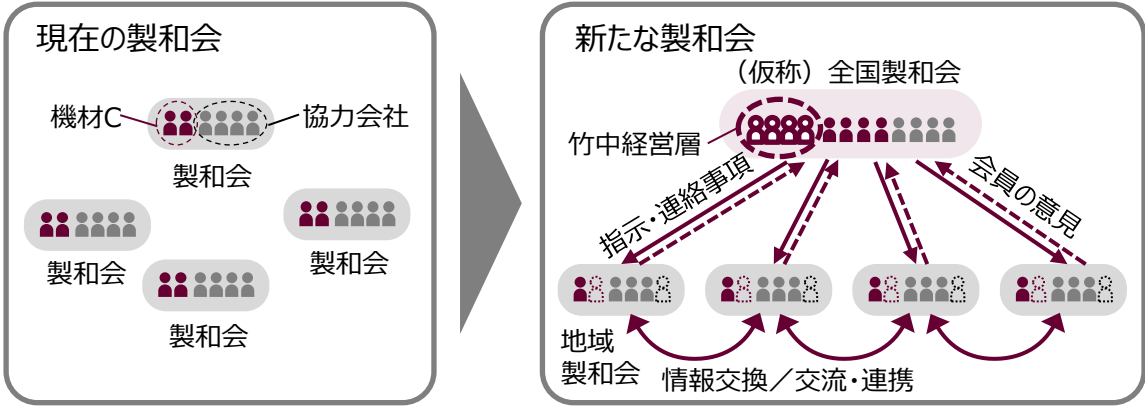
あるべき姿 目指す将来像		項目	指標	現状	マイルストーン (目標値、達成率など)		
					2024	2027	2030
1. 安全・品質・環境・コンプライアンス	あらゆる工事用機械・電気の安全・品質を主導して責任を果たし、高い信頼を得ている	(1) 機械関連 重大・重篤災害	発生件数(3ヵ年移動平均)	2.0件	2.0件	1.5件	1.0件
		(2) 機械関連 災害(不休災害を含む)	発生件数	30件	25件	20件	15件
		(3) 機械関連 公衆災害(レベルⅡ以上)	件数	3.2件	2.5件	2.0件	1.5件
		(4) 機械関連 公衆災害(レベルⅠ～Ⅲ)	件数	11.4件	10件	8件	6件
		(5) 機械関連(基礎工事) 期中品質問題(レベルⅡ以上)	件数	0件	0件	0件	0件
		(6) 機械関連(TC/EV/電気機器) 故障	故障件数/100稼働月	1.3	1.0	0.8	0.60%
		(7) 機械関連 重大なコンプライアンス違反(是正勧告書発行)	件数	3.0件	2.5件	2.0件	1.5件
		(8) 作業所からのCO ₂ 排出量(スコープ1,2)	CO ₂ 排出量	10.6万t	8.4万t	7.0万t	5.7万t
① 協力会社	協力会社を指導・教育し、全店の機械・電気災害及び重大な品質トラブルを防止できている	(1) 機械関連災害撲滅(屈伸式高車取扱い講習会・バックホウ抜き打ち巡回等)	件数	-	6件	12件	18件
		(2) 揚重災害撲滅(移動式クレーン玉掛ワンポイントレッスン・タワークレーンオペレータ講習会等)	件数	-	6件	12件	18件
		(3) 機械関連公衆災害撲滅(バックホウ抜き打ち巡回・障害撤去飛散養生の活用等)	件数	-	6件	12件	18件
② 計画組織体制	計画から施工管理まで一貫して対応できる体制が構築できており、お客様始め社内外関係者の信頼を得ている	(1) 機械施工(杭・特殊施工他)の関与率	関与率	70%	80%	90%	100%
		(2) 機械関連 期中品質問題(レベルⅠ・Ⅱ以外の適正対応率) 基礎工事に限る	対応率	100%	100%	100%	100%
③ 自社機械 クレーン等の借用機械含む	自社機械の維持管理の万全を図り、安全・品質・環境において他社との優位性が確保されている	(1) 災害(不休災害を含む)	発生件数(3ヵ年移動平均)	5.0件	4.0件	3.0件	2.0件
		(2) 公衆災害(レベルⅡ以上)	件数	0件	0件	0件	0件
		(3) 品質(機械)	故障率(故障件数/稼働100力月)	1.3	1.0	0.8	0.6

① 協力会社

協力会社を指導・教育し、全店の機械・電気災害及び重大な品質トラブルを防止できている

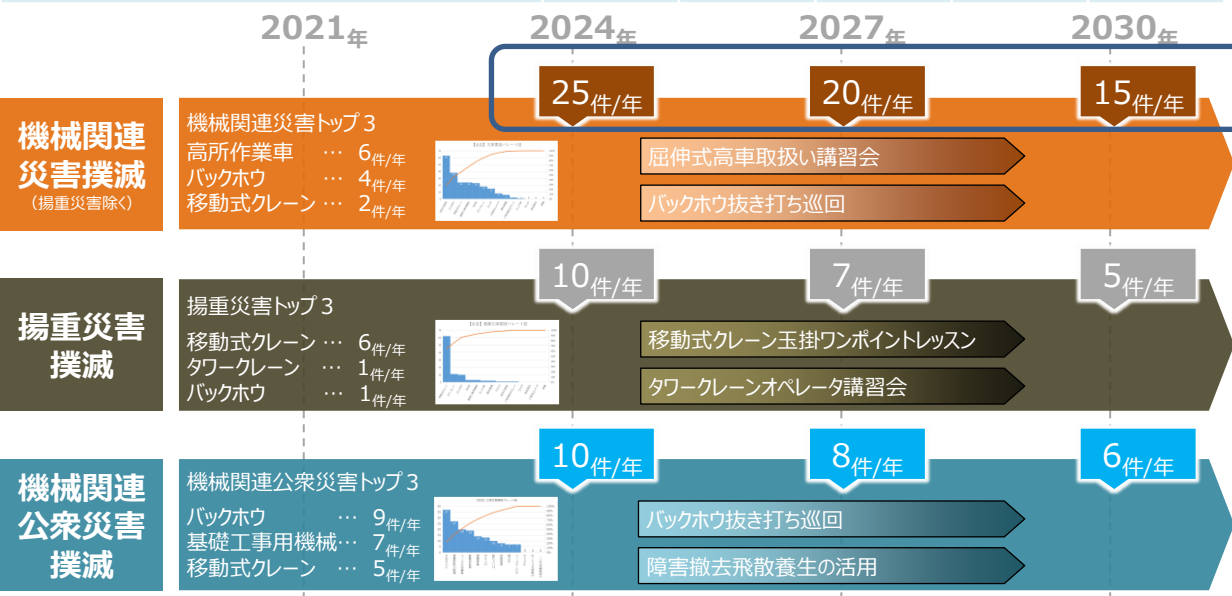
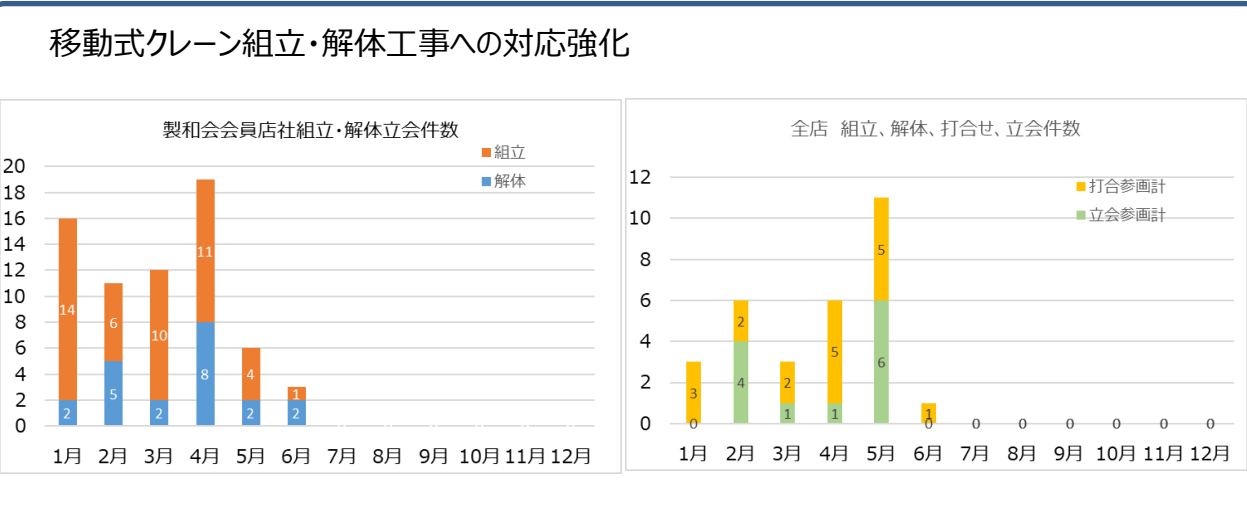
【現状把握】

製和会の全国組織化
各機材センター毎に組織している製和会を社内規定に定め、全社的な組織に再編成する



【目標項目・目標値の検討】

項目	指標	現状	マイルストーン		
			2024	2027	2030
機械関連災害撲滅(屈伸式高車取扱い講習会・バックホウ抜き打ち巡回等)	件数	—	6件	12件	18件
揚重災害撲滅(移動式クレーン玉掛ワンポイントレッスン・タワークレーンオペレータ講習会等)	件数	—	6件	12件	18件
機械関連公衆災害撲滅(バックホウ抜き打ち巡回・障害撤去飛散養生の活用等)	件数	—	6件	12件	18件



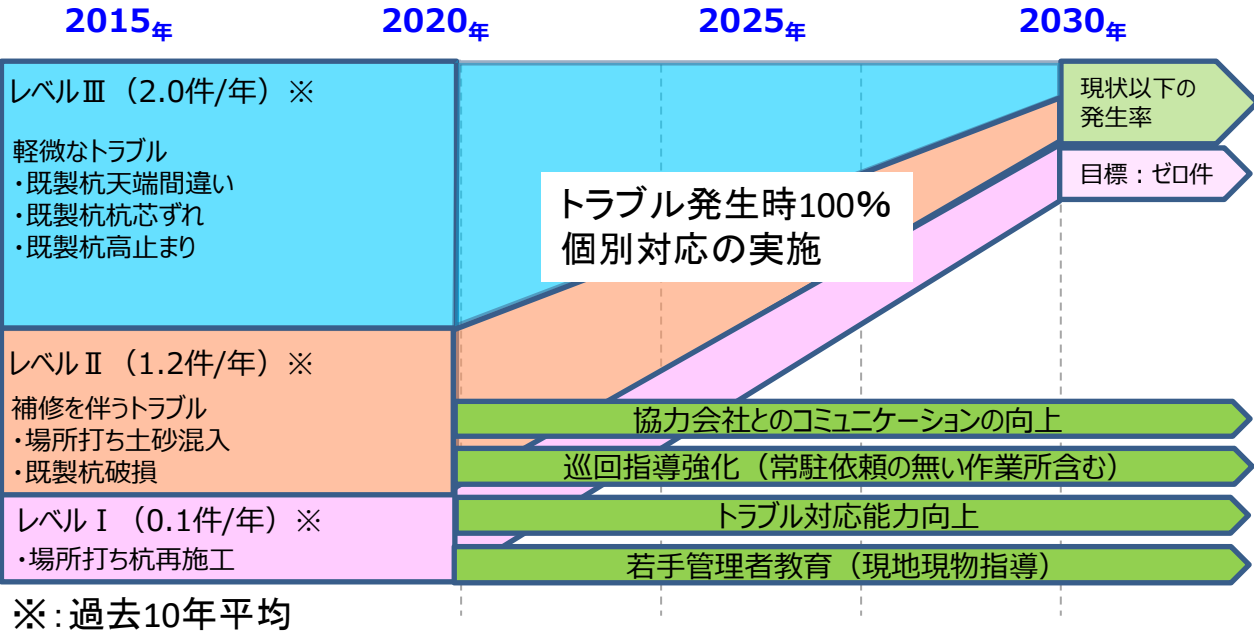
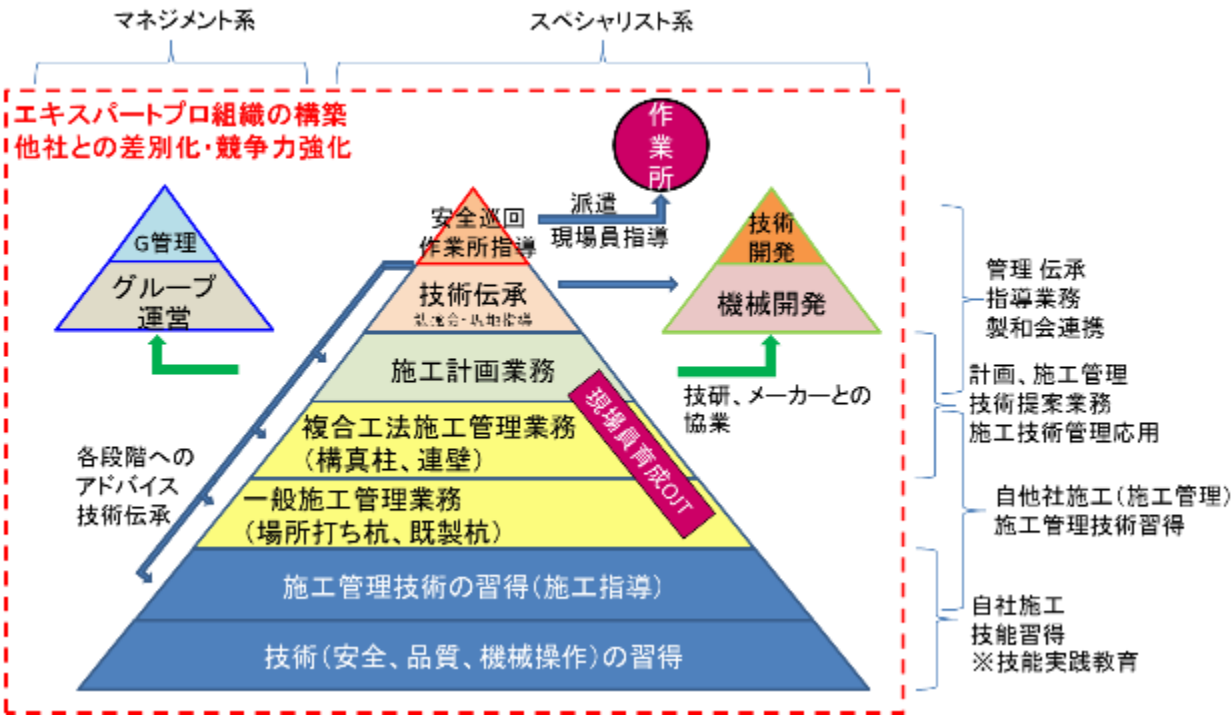
② 計画・組織体制

計画から施工管理まで一貫して対応できる体制が構築できており、お客様始め社内外関係者の信頼を得ている

本設試験杭立会い	常駐施工管理
100% (※)	常駐依頼対応100%

※西日本は既成杭未固結採取時のみ立会

【人材育成計画検討】

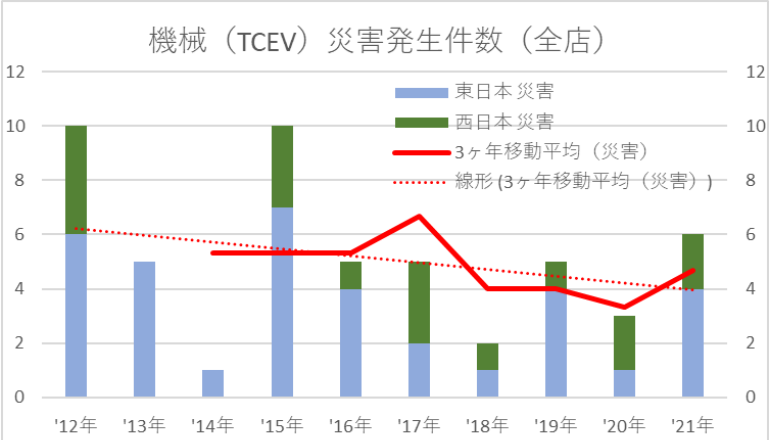


【目標項目・目標値の検討】

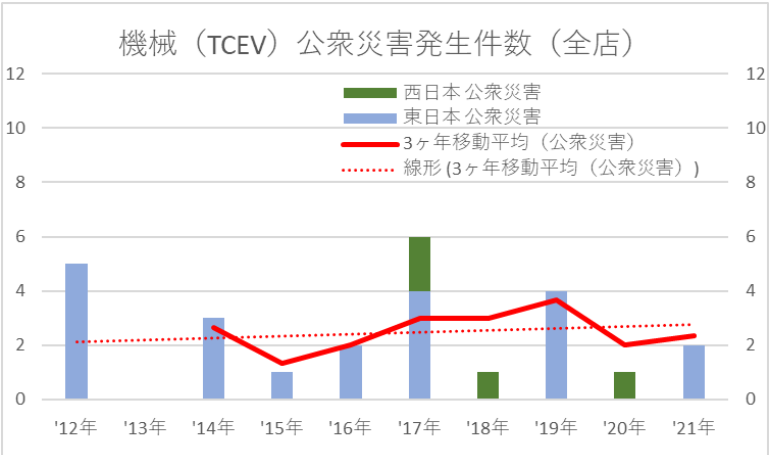
項目	指標	現状	マイルストーン		
			2024	2027	2030
基礎工事計画及び実施管理への関与	関与率	70%	80%	90%	100%
基礎工事での品質トラブルの対応	対応率	100%	100%	100%	100%

③ 自社機械 自社機械の維持管理の万全を図り、安全・品質・環境において他社との優位性が確保されている

【現状把握】



TCEV災害発生件数の経年推移は減少傾向にある。



公衆災害(ヒヤリハット含む)の経年の推移は微増傾向にある(西日本は2017年から集計)。



- ・オペレータ巡回で、玉掛3・3・3運動の推進等を実施
- ・TCオペレータ会社の安全大会に参画し、クレーン関連災害トラブル事例による安全教育やコンプライアンス教育を実施



- ・TCのクライミング、解体時に工具類が落下しないように、アウトマスト部を垂直ネットで養生した



- ・EVのクライミング、解体時に工具類が落下しないようにマスト接続部の外周と下面を養生した

【目標項目・目標値の検討】

項目	指標	現状 (3年平均)	マイルストーン		
			2024	2027	2030
災害(不休を含む)	件数	5件	4件	3件	2件
公衆災害(レベルⅡ以上)	件数	0件	0件	0件	0件
品質(機械)	故障率	(東)1.1 (西)1.4	1.0	0.8	0.6

(2) 原価力・生産力の活動目標(二次方策)

あるべき姿 目指す将来像		項目	指標	現状	マイルストーン (目標値、達成率など)		
					2024	2027	2030
2. 原価力・生産力	建築生産の将来像とリンクした開発改善に挑戦し続けており、生産性の向上に貢献できている	(1) 計画省人化率(機械・ロボ・IoT)	計画省人化率	－	1.00%	1.25%	1.50%
		(2) 仮設費低減(見積原価－完工原価)	億円	－	5億円	6億円	7億円
① フロントローディング・計画	初期フェーズから質の高い施工計画を立案することで、フロントローディングに貢献できている	(1) 着工前計画実施率	件数	－	70%	80%	90%
		(2) 計画起因トラブル件数	件数	6件	5件	4件	3件
		(3) フロントローディングツールの整備・拡充	件数	－	5件	5件	5件
② 開発・改善新領域	先進的な機械施工技術の開発を、圧倒的なスピードで実現すると共に、導入効果を定量的に把握した普及展開ができている	(1) 継続的な開発への取り組み	開発テーマ件数 (新規含む) [件]	33	24	32	32
		(2) 開発技術の普及展開	作業所適用件数 [件] (適用数量 [件・日])	55	60	70	80
③ 自社機械	建築生産の要となる主要機械の計画的な保有・更新を図り、技術力と競争力のある機械運用体制が確立できている	(1) 保有高(主要機械)	億円	158億円	160億円	160億円	160億円
		(2) 新機能機械導入	台数	－	2台	2台	2台
		(3) 保有機械の有効利用	稼働率	42%	42%	44%	46%
		(4) 借用機械(金額)のモニタリング	確認率	－	100%	100%	100%
④ 調達(資機材・施工)	工事調達、機械調達等において、受注活動および期中の生産改善や原価低減に貢献している	(1) 新たな原価低減活動	件数	－	累計3件	累計6件	累計9件
		(2) 機械施工(杭工事)逸失利益低減	増加率 精算金額÷契約金額	9%	8%以下	7%以下	5%以下
		(3) 機材センター集約調達額(総合レンタル)	億円	45億円	50億円	55億円	60億円
		(4) 機材センター集約調達率	調達率(東京) 調達率(大阪)	100% 80%	100% 85%	100% 90%	100% 100%

① フロントローディング・計画

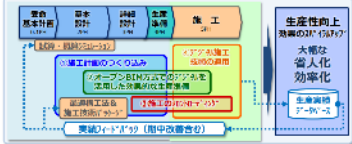
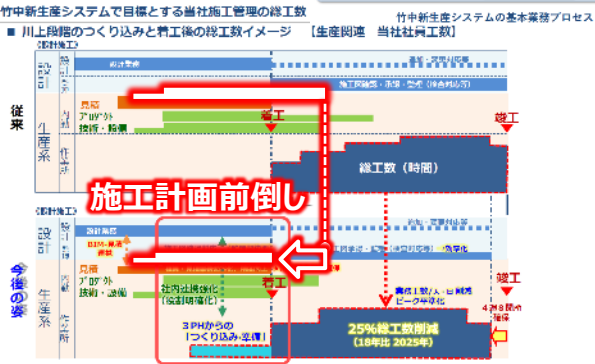
初期フェーズから質の高い施工計画を立案することで、フロントローディングに貢献できている

【現状把握】

新生産システムが目指す施工管理の効率化

2025年25%向上

下記に示す18年比での生産性目標設定は、新生産システム対応が始まった2020年着工以降のプロジェクトにおける各年度ごとの生産性向上目標レベルを示すものとする。



【目標項目・目標値の検討】

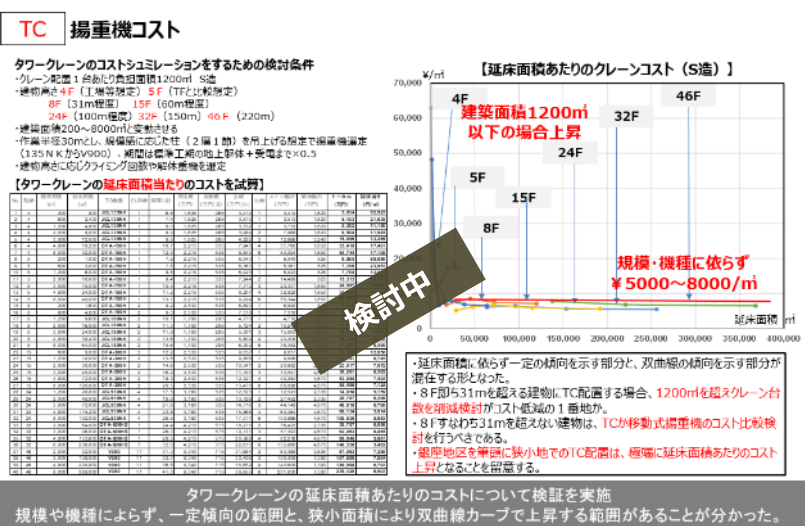
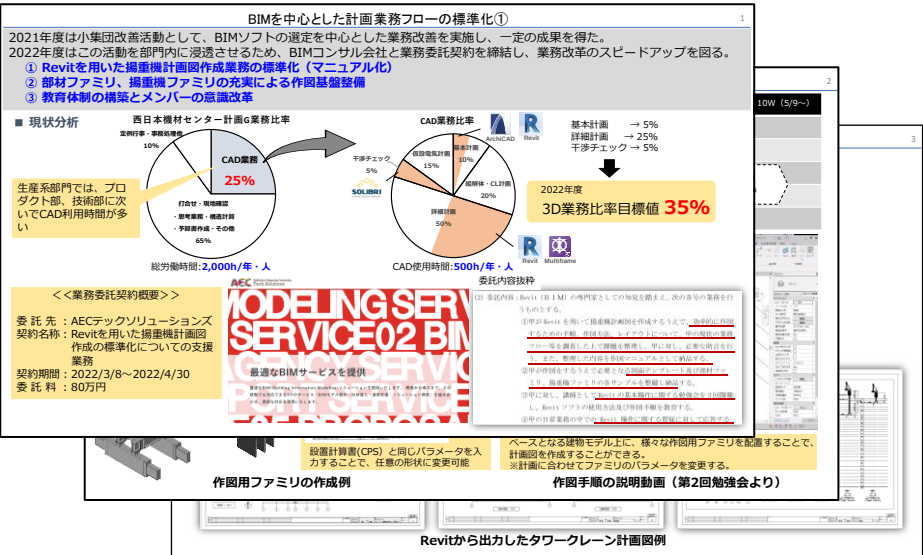
項目	指標	現状	マイルストーン		
			2024	2027	2030
着工前計画実施率	件数	—	70%	80%	90%
計画起因トラブル件数	件数	6件	5件	4件	3件
フロントローディングツールの整備・拡充	件数	—	5件	5件	5件

【着工前計画実施率の定義】

新築着工前に1プロジェクト毎に下記項目の実施状況をカウント

B I Mを中心とした揚重機計画の業務フロー構築

原価シミュレーションシートの作成 (例)



分類	フロントローディングの範囲	期中の範囲
① クレーン	計算書・本設構造変更	仮設鉄骨対応
② 解体機	配置	計算書・仮設鉄骨対応
③ エレベータ	計算書・本設構造変更	仮設鉄骨対応
④ 杭・構真柱	施工計画書完了	—
⑤ 山留	施工計画書完了	—
⑥ 特殊	方針決定・基本計画	詳細計画

【計画起因トラブルの定義】

各計画に起因し、作業所の工程に遅延（1日以上）を与えた件数をカウント

② 開発・改善 新領域

先進的な機械化施工技術の開発を、圧倒的なスピードで実現すると共に、導入効果を定量的に把握した普及展開ができている

【現状把握】

【目標項目・目標値の検討】

■開発テーマ件数

管理区分	件数 (3年平均)	年度毎件数		
		2020年	2021年	2022年
東日本	11	10	12	12
西日本	18	16	17	21

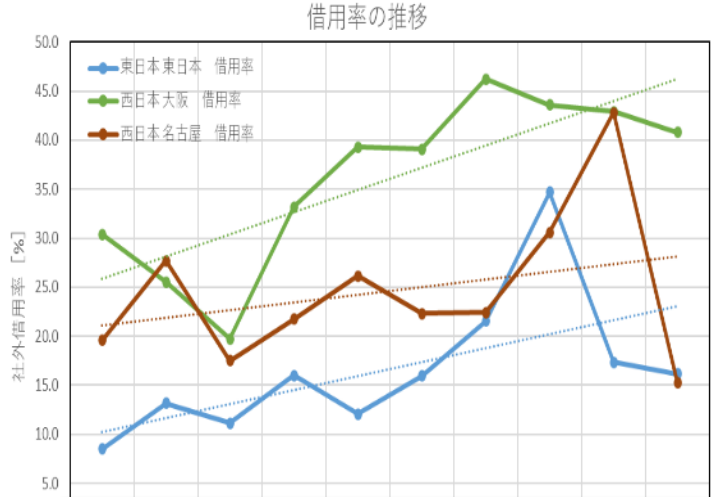
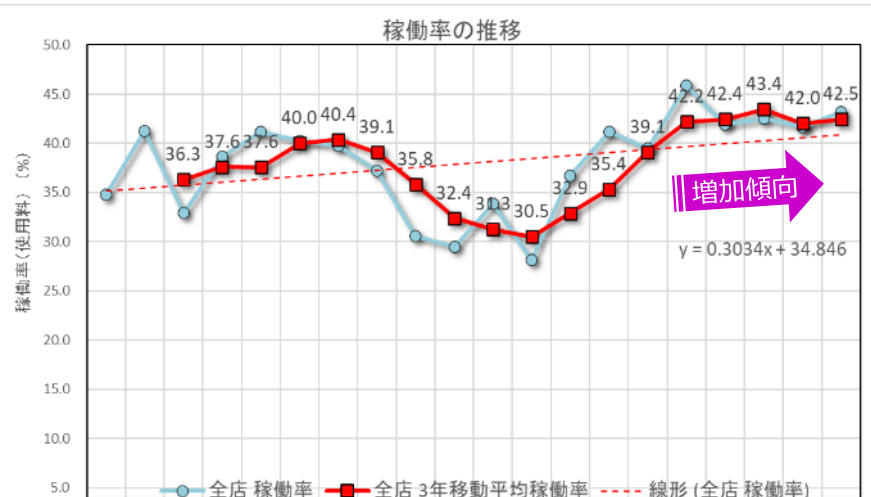
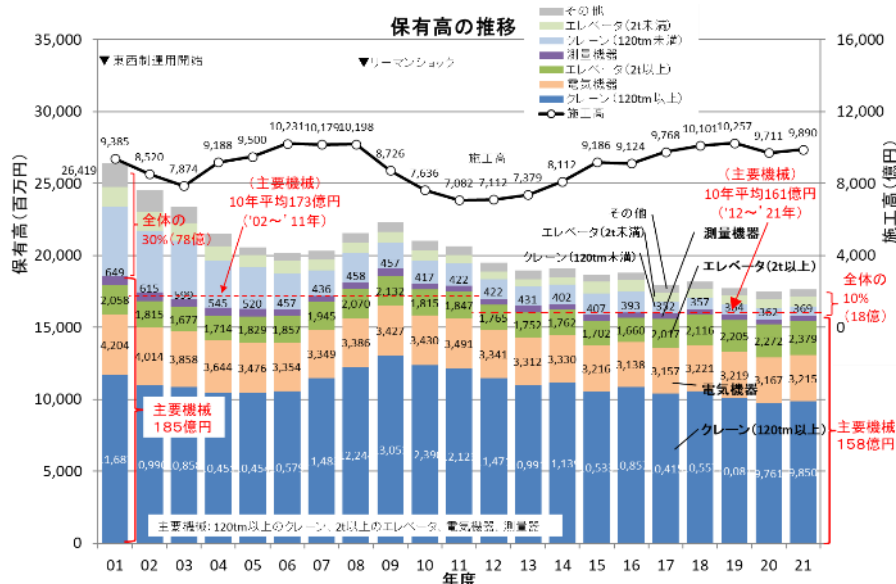
項目	指標	現状 (2か年平均)	マイルストーン		
			2024年	2027年	2030年
開発テーマ件数	件	33	24	32	32
作業所適用件数 (適用数量)	件	55	60	70	80

■作業所適用件数

【2020年度 : 計39件】	【2021年度 : 計70件】
①建トウン : 12件	①建トウン : 20件
②アップロー+ : 16件	②アップロー+ : 25件
③AXキューーン : 6件	③TawaRemo : 1件
④ラインドラゴン : 4件	④AXキューーン : 5件
⑤給電レール : 1件	⑤ラインドラゴン : 3件
⑥墨出しロボット : 0件	⑥給電レール : 1件
	⑦I-bow : 1件
	⑧PLC分電盤 : 8件
	⑨ロボットプラットフォーム : 6件

③ 自社機械 建築生産の要となる主要機械の計画的な保有・更新を図り、技術力と競争力のある機械運用体制が確立できている

※1 定義 (主要機械)= (120t以上のクレーン) + (2t以上のエレベータ) + (電気機器) + (測量機)



(稼働率の推移)
0.3ポイント/年上昇を維持している。

(借用率の推移)
借用率は増加傾向にあり、不足を借用で補う傾向が強まっている。

(保有高の推移)

2000年以降、低稼働かつ借用容易な機械の廃棄を進め、主要機械の保有高は直近10年平均160億円。

※2016年検討時 主要機械保有高⇔対施工高比率の1.6%(Min)と試算

2030年にはグループ成長戦略の目標である国内建築11,400億円の売上に対して機械の保有を行う

稼働率を2016年の40%から46%に上げることを目標とし、11,400億円×0.016×40/46=159億円

の保有高を維持する

【目標項目・
目標値の検討】

項目	指標	現状	マイルストーン		
			2024	2027	2030
保有高(主要機械※1)	億円	158億円	160億円	160億円	160億円
高機能機械購入	購入台数	—	2台	2台	2台
保有機械の有効利用	稼働率	42%	42%	44%	46%
借用機械(金額)のモニタリング	確認率	—	100%	100%	100%

③ 自社機械 建築生産の要となる主要機械の計画的な保有・更新を図り、技術力と競争力のある機械運用体制が確立できている

● 自社保有の高機能機械の事例

1. 工事用エレベータ HCE-3000HS(開発購入機)

開発機 HCE-3000HSの特徴

①搬器昇降速度

●国内最速の工事用EV！(世界も最速！)

昇降速度の高速化

揚重時間の短縮

120m/minの実現！

(現行機の1.2倍)



②搬器内扉開閉速度

●内扉開閉時間のストレス解消！

開閉速度の高速化

揚重時間の短縮

9.25secの短縮！

(内扉の開/閉の合算値)



搬器昇降時間と内扉開閉時間の短縮から算出した着床回数の変化

現行機：443回/日 開発機：543回/日 (見込み)

揚重効率→約22.5%アップ！！

③大型踏板の搭載

●大型踏板搭載による労力とコスト削減！

・床先ステージ構築不要による
組立/クライミング/解体日数

11.0日削減！ (見込み)

・床先ステージ構築不要による
仮設材費用(コスト)

180万円削減！ (見込み)

・大型踏板による作業性/安全性の変化

火災発生リスク撲滅

特許出願済



・搬器昇降速度と扉開閉速度の高速化により

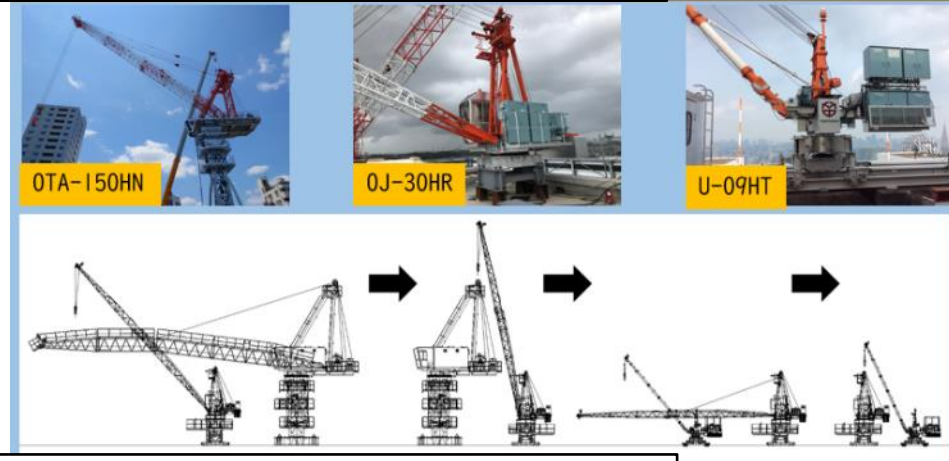
揚重効率養生効率を22.5%UP(従来機2.8t比)

・大型踏板の搭載により

労務11日、製作コスト180万円、火災リスクを削減

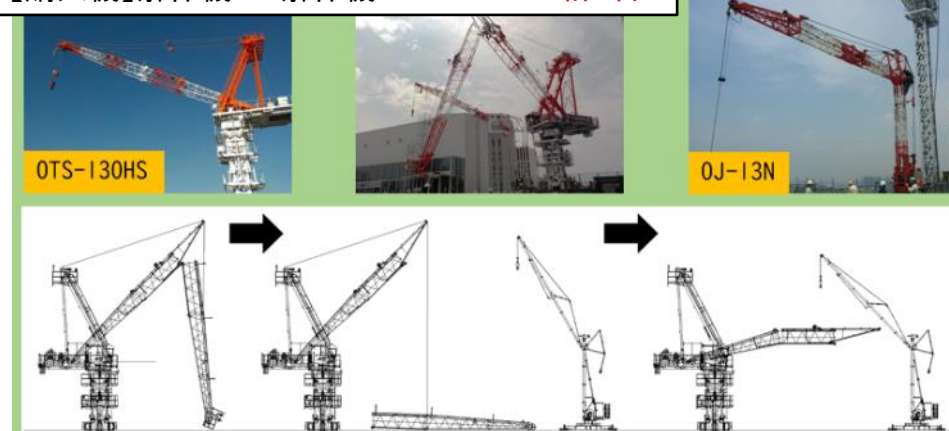
2. 解体用タワークレーン OTS-130HS(購入機)

【従来機】解体機1→解体機2→解体機3 計3台



【購入機】解体機1→解体機2

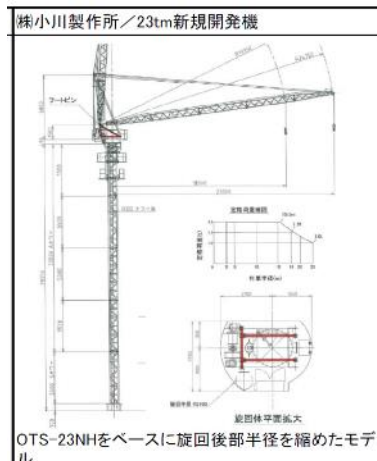
計2台



解体1ステップ削減により、工程、解体費を大幅削減

3. 小型タワークレーン

OTS-CP23(開発機)



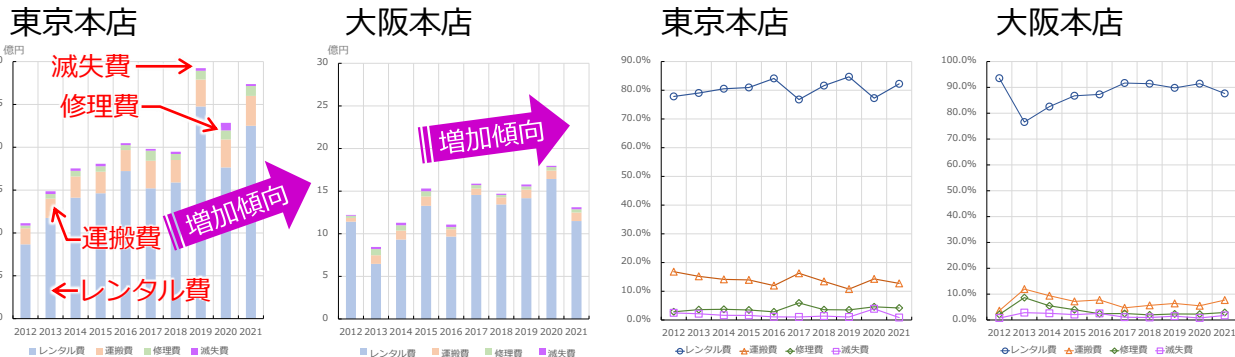
・旋回後部半径の同クラス最小化により、狭小地での計画柔軟性UP。
・シリンダー電動化により、作動油飛散リスクの低減

④ 調達(資機材・施工)

工事調達、機械調達等において、受注活動および期中の生産改善や原価低減に貢献している

【現状把握】

総合レンタル調達実績

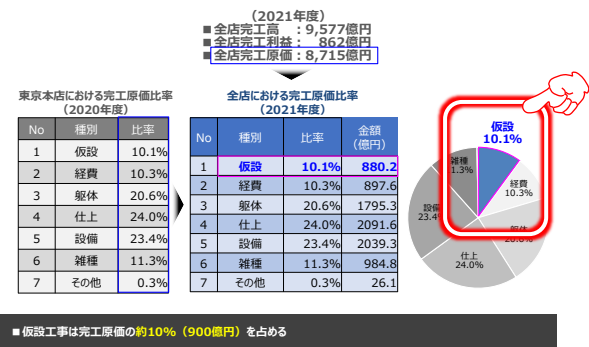


【10年平均での考察】

- ・東京のレンタル費は80%程度⇔大阪のレンタル費は90%程度
- ・東京は運搬費の比率が14%と高い
- ・東京・大阪とも修理・減失費は6%程度

仮設品目強化WG資料 仮設費10%

《当社分析》 完工原価に占める仮設工事の割合



原価シミュレーションシートの作成 (例)



【工事調達】

・機械施工調達は直接行っていないが、調達部と連携し、実施工状況を共有（定期連絡会の実施）することで、安全・品質が確保できる協力会社を査定し、機械施工調達の支援（助言）を行い、品質不良による補修工事の削減を図っている。過去5年で平均9%程度の工事費増加が発生している。

項目	指標	現状	マイルストーン		
			2024	2027	2030
逸失利益低減	精算金額÷契約金額:増加率	9%	8%以内	7%以内	5%以内

【目標項目・目標値の検討】

項目	指標	現状	マイルストーン		
			2024	2027	2030
新たな原価低減活動	件数	—	累計3件	累計6件	累計9件
機材センター集約調達額	億円	45億円	50億円	55億円	60億円
機材センター集約調達率	東京 率	100%	100%	100%	100%
	大阪 率	80%	85%	90%	100%

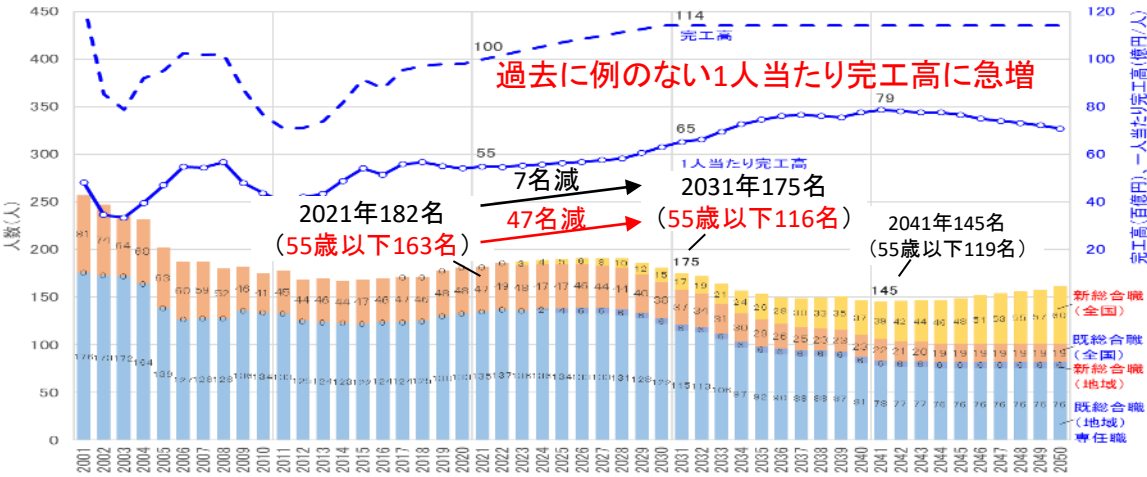
(3) 人材・専門技術の活動目標(二次方策)

あるべき姿 目指す将来像		項目	指標	現状	マイルストーン （目標値、達成率など）		
					2024	2027	2030
3. 人材・専門技術	より高度な機械施工を実現できる人材・体制が確保されており、プロジェクトの課題解決に貢献すると共に、技術の伝承と専門技術の蓄積が図られている	(1) 人材	人員数(新社員除く)	182人	193人	202人	200人
		(2) WLB	時間外労働時間	20h/月	20h/月	20h/月	20h/月
		(3) 組織体制	マイルストーン達成率	－	100%	100%	100%
① 人材確保	基幹業務に加え、高速通信技術など新たな領域に対応できる専門人材を	(1) 人員確保	人員確保施策実施率	－	100%	100%	－
		(2) 採用数(全国型)	採用数(全国型)	平均1.3人	平均5人	平均5人	平均5人
② 東西交流 部門間連携	人・物・技術の交流・共有・活用が図れ、他部門と一体感、温度感・スピー	(1) 業務の全店標準化	全店標準化件数	－	6件	累計13件	累計20件
		(2) 部門間連携	部門間連携施策件数	－	2件	累計5件	累計7件
③ ダイバーシティー	シニア層など多様な人材の個性や能力が”適所適材”で発揮できている	(1) シニア層活用	シニア層活用施策件数	－	3件	累計7件	累計10件
		(2) 業務体制整備	体制整備実施率	－	100%	100%	－
		(3) 職場環境	従業員満足度調査点	3.5	3.6以上	3.8以上	4.0以上
④ 伝承・教育	専門性かつ経験が必要な工事に継続して取り組んでおり、現地現物(自社	(1) キャリアプラン	キャリアプラン実施率	－	70%以上	70%以上	70%以上
		(2) 建機系専門教育	教育計画実施率	－	100%	100%	－

① 人材確保

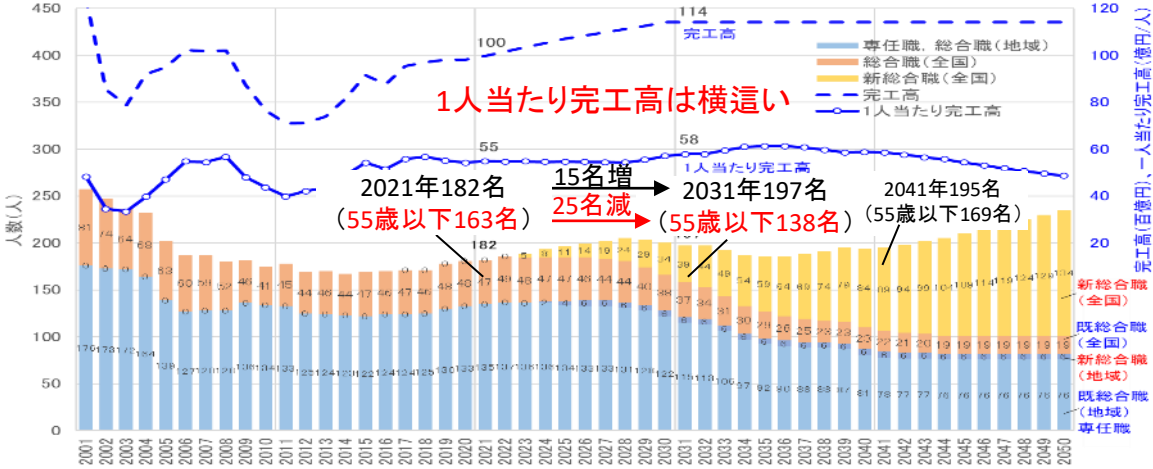
基幹業務に加え、高速通信技術など新たな領域に対応できる専門人材を計画的に確保できている

(1) 現状 【現状】 これまでの実績を踏まえた人員数推移



項目	現状	マイルストーン		
		2024	2027	2030
採用数(全国型)	平均1.3人	平均5人	平均5人	平均5人
人員確保施策実施率	—	100%	100%	—

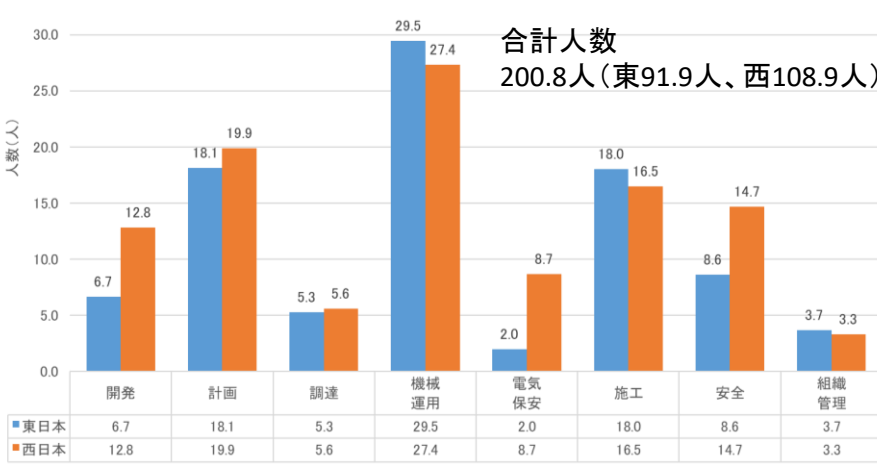
【目標】 毎年5名採用できた場合の人員数推移



(2) あるべき姿実現施策

項目	内容	2022			2023		
		6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
1 募集方法検討	・若手社員による卒業校訪問強化 ・リクナビ登録者へのアプローチ強化 ・高専へのアプローチ強化 ・人材派遣会社へのアプローチ(キャリア採用)						
2 本社支店役割検討	支店採用枠の導入(ex.東3名、西2名等)						
3 他職能連携検討	設備部リクルート資料に建機説明挿入等						
4 募集ツール検討	業務説明資料、HP、1dayの内容見直し等						
5 採用基準検討	早期面接継続、本気度の高い学生の推薦等						
6 実施							
7 評価・改善							

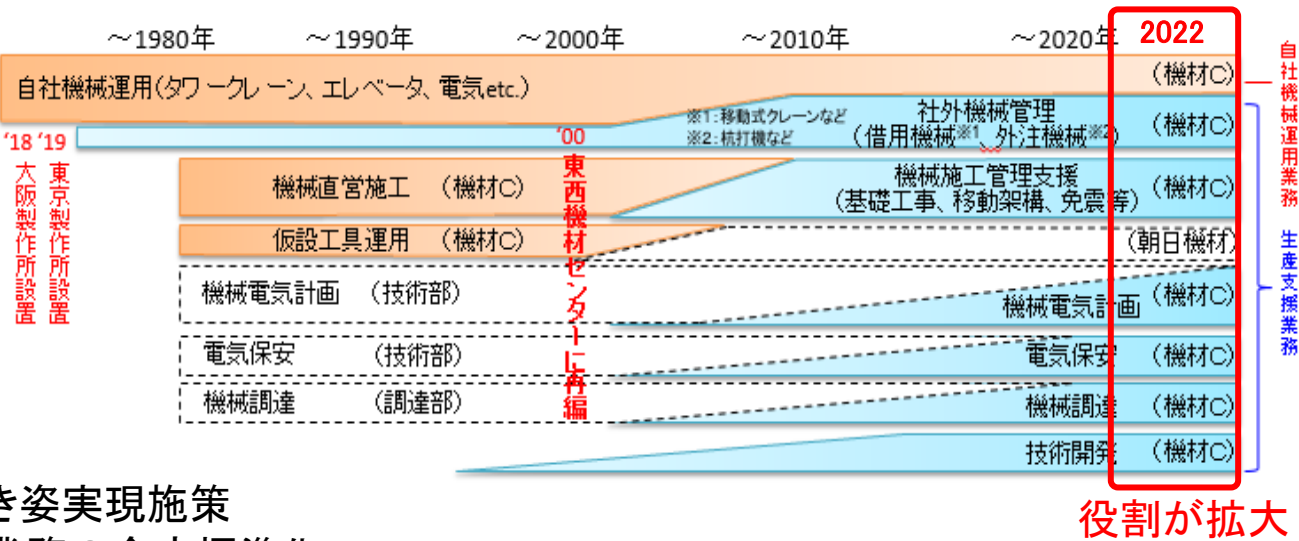
あるべき姿実現に向けた必要マンパワー



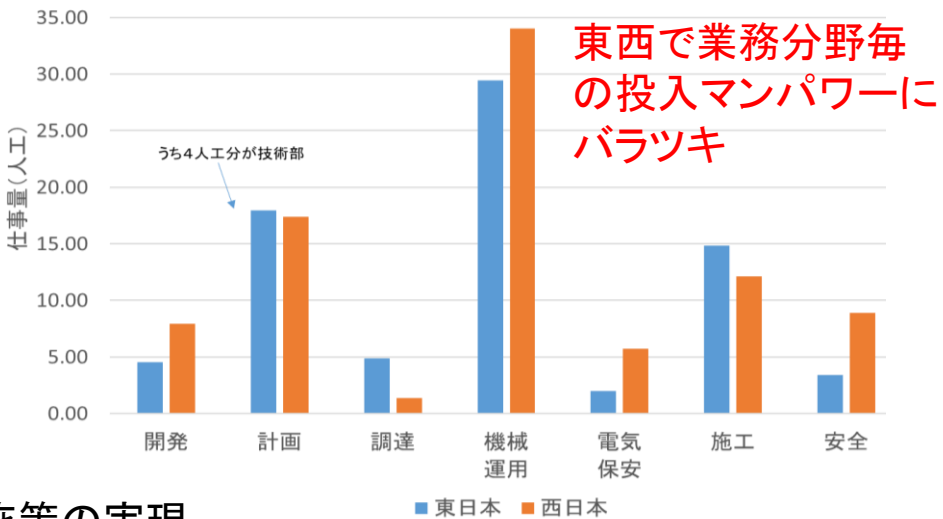
② 東西交流 部門間連携

人・物・技術の交流・共有・活用が図れ、他部門と一体感、温度感・スピード感が共有できる環境が整っている

(1) 現状



項目	現状	マイルストーン		
		2024	2027	2030
全店標準化件数	—	6件	累計13件	累計20件
部門間連携施策件数	—	2件	累計5件	累計7件



(2) あるべき姿実現施策

a. 東西業務の全店標準化

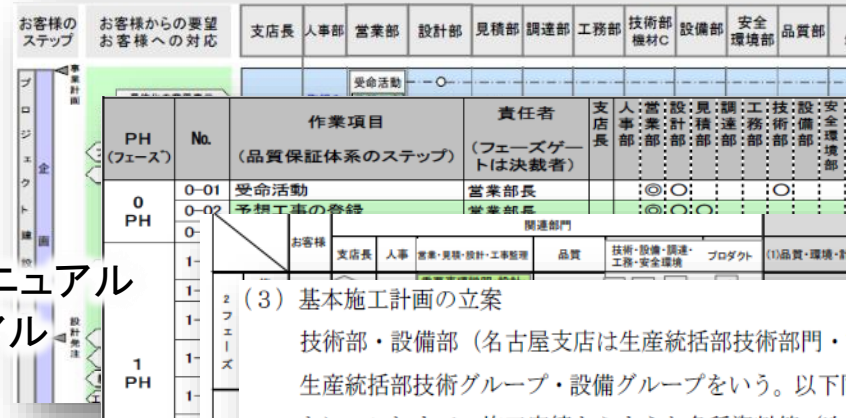
統一すべき業務を抽出・整理し、標準化を図る

分野	取組み事項
開発	主要開発課題の全店調整。開発活動の標準化。技研との連携
計画	BIM活用、強度検討・見積ツール、標準計画シート、杭工事計画
調達	クレーン、レンタル機械の集約調達、棚卸巡回、CO2排出抑制
運用	整備・指導業務外注化、教育ツール、機械全店活用、機械品質(故障削減)、生産指標(省人化・原価低減)
電気	低圧、改修、解体、A2支店等の保安。教育ツール。計画業務
施工	施工支援範囲、開発工法展開、技術伝承教育
安全	管理対象範囲、A2支店対応、教育ツール

b. 部門間連携向上施策の実現

品質保証体系等、例規類に役割及び他部門との連携を明記する

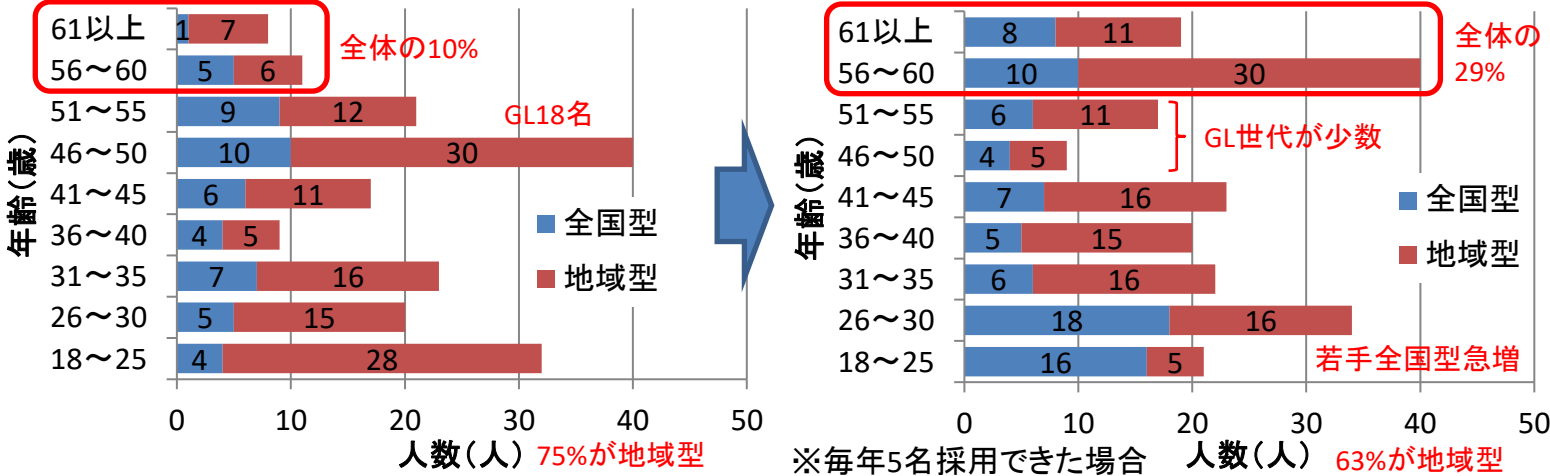
- 品質保証体系規程
- 分掌業務基準
- 職務権限規程
- 工事調達規程
- 工事用電気規程
- 基本施工計画業務マニュアル
- 施工管理業務マニュアル
- etc.



③ ダイバーシティー

シニア層など多様な人材の個性や能力が”適所適材”で発揮できている

(1)現状



(2)あるべき姿実現施策

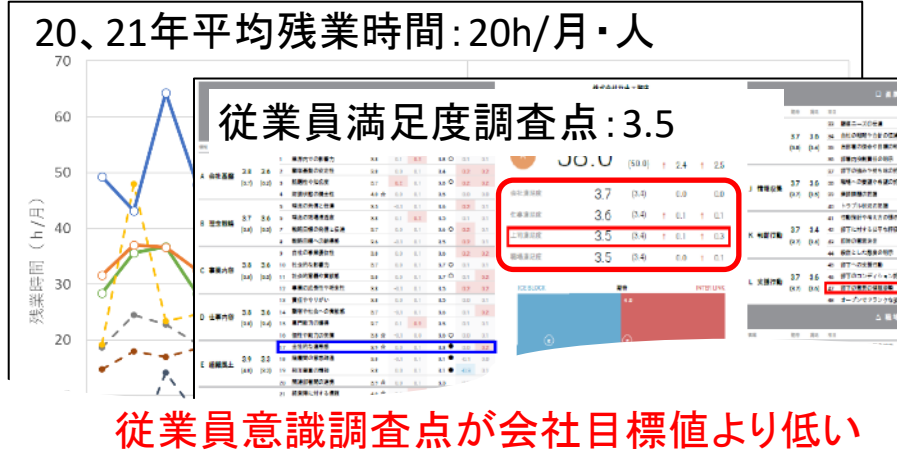
- a. シニア層(56歳以上)活用策の立案・実現
- 安全関与範囲拡大、協力会社指導強化等に期待

項目	シニア層に期待する役割
安全品質 コンプライアンス	・社内外教育及び安全巡回 (玉掛、オペレータ、クレーン機能付油圧ショベル、高車、電気、運搬、解体機、小型移動式クレーン、クレーン協会etc.) ・A2支店等、地方への関与拡大
原価力・生産力	・機械集約調達強化(棚卸巡回等) ・機械運用体制の整備、外注会社育成 ・基礎工事等、機械化施工技術の伝承
作業所常駐 半常駐など	工事用機械の品質、原価、工程、安全、環境の管理 (機械施工の品質、原価、工程、安全、環境の管理)

- b. 体制整備
- 採用方針変更に伴う機械運用体制整備

項目	2022	2023	2024	2025	2026
1 外注体制検討					
2 外注先検討					
3 教育制度整備					
4 教育ツール整備					
5 外注人材確保					
6 実施					
7 評価・改善					

項目	現状	2024	2027	2030
シニア活用施策件数	—	3件	累計7件	累計10件
体制整備実施率	—	100%	100%	—
従業員満足度調査点	3.5	3.6以上	3.8以上	4.0以上



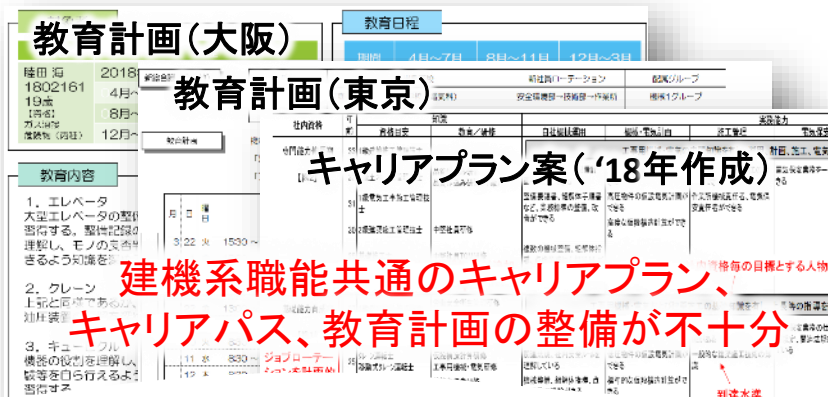
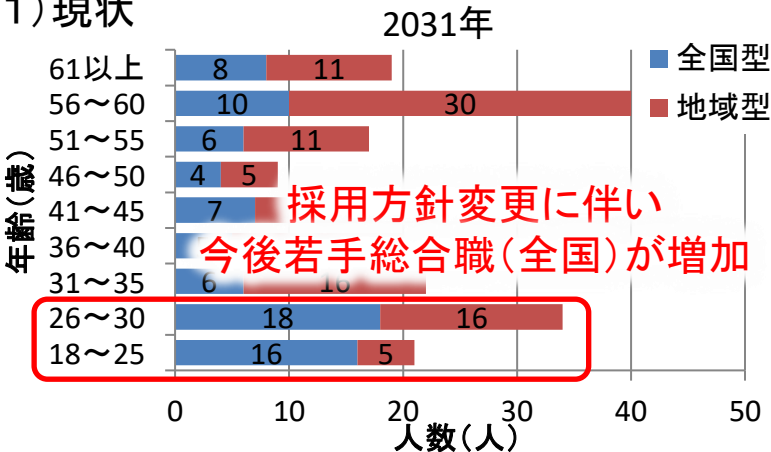
限られた人材を柔軟に配置し、パフォーマンスを最大化できる組織構築



④ 传承·教育

専門性かつ経験が必要な工事に継続して取り組んでおり、現地現物（自社施工含む）により人材育成と技術の伝承が図れている

(1) 現状



(2)あるべき姿実現施策

a. キャリアパス設定、教育ローテーション、及び教育内容の計画・実施

概観	標準年齢	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
資	社内資格	新	GS1								GS2	
格	役付資格	新	早稲田大学									
基	Aさん(院卒)				新社員	機械G		施工G		作業所orその他G		
本	Bさん(院卒)						施工G	機械G		作業所orその他G		
口	Cさん(大卒)			新社員	機械G		施工G		作業所orその他G			
ー	Dさん(大卒)			新社員	施工G		機械G		作業所orその他G			
テ	Eさん(高専卒)	新社員	機械G		施工G		作業所orその他G					
案	Fさん(高専卒)	新社員	施工G		機械G		作業所orその他G					

項目		教育内容	目標到達水準	
計画確認会		クレーン指針(計画編)の内容理解	計画内容が理解できる	
組立 危険 運搬 資格 組立 社内 落成 月例 トラ	打合	項目	教育内容	目標到達水準
	機 械 整 備	部材検収	許容変形量等管理値把握、搬入時の実地検収	部材の変形等の異常を評価、記録できる
		荷割し・積込み・小運搬	揚重運搬に関する法令・社規の把握、資格取得	法令・社規等に基づく作業指示、安全管理ができる
		小ばらし・組付け	部品構成、手順、精度・締付力等管理値の把握、実技	管理値に基づく作業確認、安全管理ができる
		部材補修	寸法精度・溶接等品質基準の把握、溶接等実技	品質基準に基づく補修指示、製品検査ができる
		クレーン・塗装	下地処理・膜厚等品質・安全・環境基準の把握、実技	各基準に基づく作業管理ができる
		シーブ等回転部整備	部品構成、整備要領、摩耗等管理値の把握、実技	各基準・要領書に基づく作業管理、安全管理ができる
		減速機類整備	〃	〃
		油圧シリンダー類整備	〃	〃
		モーター・ブレーキ類整備	〃	〃
電気・検出機器類整備	〃	〃		
試運転・完成検査	試験・検査基準の理解、実地検査	完成検査記録表に基づく社内検査ができる		
トラブル対応	原因究明・対策立案手法、過去事例、取説等の理解	取説に基づく故障部位の特定と部品交換指示ができる		

③建機系社員専門教育カリキュラム拡充

研修講座名	時 期	研修場所			視察、体験場所	講 師	対 象	備 考
		東	名	大				
A 機械安全	2021/7			○	作業所見学	西) 飯田、松田 東) 大竹、水野	2018年入社 (3名) 大) 山口康雄 東) 山口康雄 東) 堀田海	テキスト作成済
B 機械通用	2021/10		○		作業所見学	西) 松田 東) 大竹、鈴木賢		
C 電気保安	2022/2			○	作業所見学	西) 松田、渡辺 東) 宇内	2019年入社 (7名) 大) 家下知子 東) 伊藤智介 東) 川村士晃 東) 鈴木美樹 東) 西條大智 東) 宮富拓己 東) 堀田海	
D 機械電気計画	2022/5			○	作業所見学	西) 吉本 東) 鈴木美、宇内		
E 機械整備、新機 体整備、点検	2022/9		○			西) 山口、松田 東) 大竹、鈴木賢		
F 機械化施工 (基礎施工)	2023/2			○	作業所見学	西) 三幸 東) 吉田	2020年入社 (7名) 大) 山本勇太 大) 田中太陽 東) 林明希 東) 江口晃太郎 東) 川村雅馬 東) 藤川孝臣 東) 安部昭平	
G 機械化施工 (特殊施工)	2023/5			○	作業所見学	西) 三幸 東) 長谷川		
H 技術開発	2023/9		○		技術研究所	西) 三幸 東) 水野		
I 交流会	2024/2			○	作業所見学	西) 櫻川 東) 内藤	(合計17名)	

特に基礎工事を学ぶ クレーン・エレベータ・電気整備・指導業務や資産運用管理業務を学ぶ